

令官は攻勢に決したり
二、軍司令官の決心に基く攻撃部署の概要左の如し

方 針

軍は總力を結集し五月四日黎明より攻勢を開始し重點を右翼第二十四師團正面に保持しつつ突進し普天間東西の線以南に於て敵主力を捕捉撃滅す

兵團部署の概要

一、左逆上陸隊

船舶工兵第二十六聯隊

海上挺進第二十六、第二十八、第二十九戰隊の各一部

以上總員約七百名

大波の引舟に依る主力部隊並に干潮時を利用して珊瑚礁上を徒歩前進する一部部隊を以て五月三日那覇沿岸出發大山附近沿岸敵後方地帯に逆上陸し敵の砲兵陣地、高等司令部等を急襲し軍主力の

攻勢を容易ならしむ

二、右逆上陸隊

船舶工兵第二十三聯隊（聯隊長及一部不参加）

海上挺進第二十七戰隊の一部

以上總員約五百名

左逆上陸隊と同要領に依り五月三日夜津鞆附近に逆上陸し軍主力攻勢を容易ならしむ

三、第六十二師團は極力現陣地帯に前田、仲間高地を保持して攻勢の

支撐となる軍主力の攻勢進展に伴ひ之に連繫して攻勢に轉ず

四、第二十四師團は五月四日〇四五〇より約三十分間攻撃準備射撃を

實施したる後攻撃を開始し先ず南上原高地を攻略し引續き普天間

東西の線に進出す

五、獨立混成第四十四旅團は五月三日夜現陣地より首里東北地區に轉

進し第二十四師團が南上原高地に進出するや機を逸せず同師團と

第六十二師團の中間地區を超越大山方向に突進し先ず第六十二師團左翼方面に粘り突入せる敵海兵軍團の退路を遮断し第六十二師團と協同して之を撃滅す

旅團の現作戦地域の防禦は第六十二師團長の擔任とす

六軍砲兵隊は五月四日〇四五〇より約三十分間主として第二十四師團正面敵第一線に對し攻撃準備射撃を實施し爾後先ず主力を以て

同師團の攻撃に協同す

七海軍陸戰隊は精銳四ヶ大隊を編成し隨時戦線に加入し得る如く現陣地に於て待機す

陸戰隊司令部は首里軍司令部洞窟に推進す

四月三十日

各兵團部隊は夫々軍の企圖に基き攻勢を準備す

第二十四師團正面に於ては敵の一部吳屋、翁長に進出す

前田高地は第二十四師團の歩兵第三十二聯隊の一大隊第六十二師團

獨立歩兵歩兵第十二大隊等高地中腹附近に在る洞窟に據り高地上の敵と交戦中なり

第六十二師團正面に於ては城間附近は敵手に落ち主なる戦線は仲間安波茶、澤峠北側高地、内間勢埋谷の線に在り其の有力なる一部は敵線内洞窟陣地に分散残存し依然抵抗を續けあり

五月一日、二日

第二十四師團は陣地に近接する敵に痛撃を加へ之を撃退しあり

第六十二師團は全線死闘中なり

五月三日

左逆上陸隊は船舶工兵第二十六隊隊長卒先陣頭に立ちて挺進し攻撃概ね成功せるもの如く傍受電話に依れば敵は友軍相撃し相當混亂しあること明瞭なり

右上陸隊は上陸に先だち甚大なる損害を受けたるも其の一部は上陸に成功し戦闘中なるもの如し

混成旅團の夜間機動は敵の砲撃下約七十名の死傷者を出せるも概ね計畫の如く進捗しつつあり

五月四日

第二十四師團は軍砲兵隊と協同し豫定の如く攻撃を開始し〇五三〇
翁長東北地區に突入せり即ち
右翼歩兵第八十九聯隊の攻撃は初期比較的順調に進捗し上原高地中
腹迄進出し得たるも間もなく敵陸海空の集中火を受け一撃に甚大な
の損害（二分一以上）を蒙り四日正午頃以後攻撃全く頓挫し大規模
に利用せる煙幕の消散すると共に愈々損害を増加するのみなり中央
歩兵第二十二聯隊は既に兵力著減しありしのみならず師團の攻撃部
署變更の關係もありて攻撃成果見るべきものなし
左翼歩兵第三十二聯隊主力は敵情地形不明の裡亂戦中の第六十二師
團右翼部隊に混入し行動意の如くならず前田高地の頂上を完全に占
領するに至らず只同聯隊の伊東大隊（獨立歩兵第二十六大隊屬）は

宜野灣街道東側を巧に突入し相原北側高地を占領したるが如きも連絡杜絶して其の状況明かならず

戦車第二十七聯隊も亦前田東側地區に突進せるも其の状況的確に判明せず獨立混成旅團は突入の機未だ熟せず依然辨ヶ岳附近に位置す此の日黎明より我が砲兵隊の活動益繼にして真に攻守とるを異にせるの感あり首里山上より敵機を望むは大規模に使用せる我が煙幕全戦場を掩ひ彼我の砲撃を遮るゝとして天地を震かし光景實に壯絶を極む此の間第二十四師團は其の右翼聯隊の攻撃成功の快報續々に入り軍司令部は朗色滿つ然れども正午頃以後前線の如き状況遂次判明する一方は既に再び敵砲撃の獨り舞台と化するありて朗色は憂色と變ずるに至れり

五月五日

軍は攻撃を續行するも損害刻々増加するのみにして攻撃幕も進展せず

斯かる状況に於て更に混成旅團を投入するも勝算なきこと明瞭なるを以て一八〇〇攻撃を中止して舊陣地帯に復歸し敵に最後の出血を強要するに決せり

(註)

一、本攻撃に於ける戦闘法上の特色は軍従來の思想に一貫し縱深に亘り紛戦地帯を作為し、陣地に於ける砲撃を避け、我互角の戦闘を爲さんとするに在り是が爲し左右逆上陸隊を以て敵の背後を擾亂するの外左の如き戦法に出でたり

二、攻撃前夜敵中約二軒の縱深に亘り多數の挺進新込隊を投入し敵線内部を擾亂す

三、輕便中心とする小部隊多數を石と共に敵線内部に投入すべし、大明と共に敵線内部を移動する敵部隊を隨所に攻撃せしむ

四、煙幕を大規模に使用す

四、第一線は天明迄に相當の縱深を以て敵線内部に突入を完了す、二、七日第二十四師團よりの報告に依れば、棚原に進出せる大隊は極めて有利なる戦闘を實施し七日再び敵戦線を突破して歸還し損害僅か數名に過ぎず、又上原方面に進出せる部隊も同様の状態なりと。

2、伊東大隊長は歸還後軍司令部に來り左の如く説明せり。

問 如何なる隊形にて突入せしや。

答 四列側面從隊、大隊長先頭。

問 敵線内に於て如何にしありしや。

答 晝間は我舊陣地に據り夜は附近の敵を索めて斬込攻撃せり。糧食は敵のものを使用せり。

問 攻勢中止後如何なる隊形にて歸還せしや。

答 四列側面從隊

3、海上挺進部隊は有力なる戦闘を交ふること二夜、軍の攻勢中

止の無電命令を受くるや之に承服を潔しとせず奮死せり
本攻勢に於て始めて使用せる戦車も亦四日前田高地に於て終

日有利なる戦闘を続けありたり

三、五月七日に至り判明せる状況の一端は右の如く、軍司令部及第二

十四師團司令部を匪然たらしめたり。

蓋し五日午後右の状況判明しあらば軍は過早に攻勢を中止するこ

となく更に有利に戦勢を導き得たるを思はしめられたればなり。

第五款 軍の攻勢中止より首里戦線撤退迄 (自五月二十六日 至五月二十八日)

五月六日乃至七日

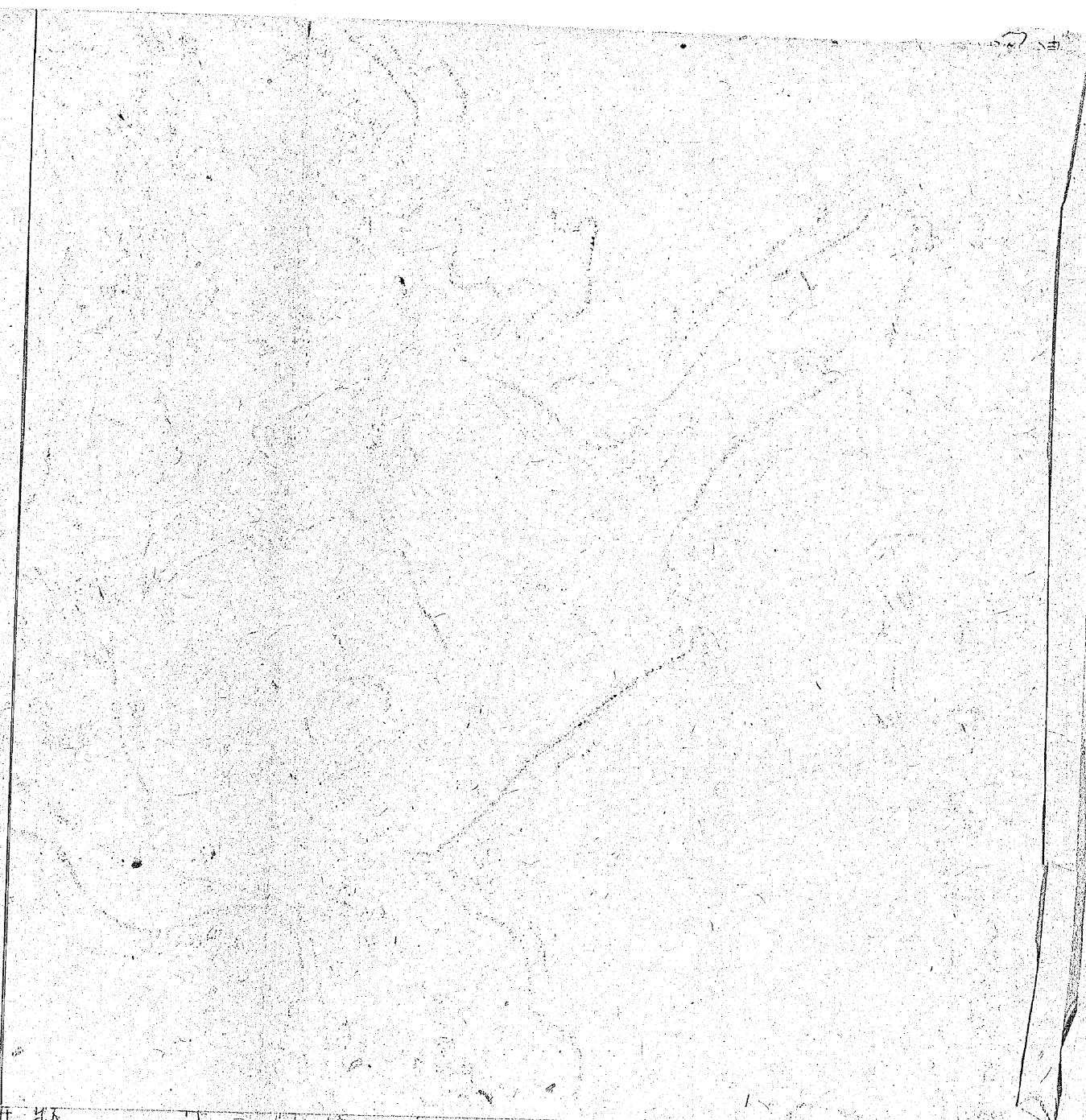
一、第六十二師團は全線激闘中なり

澤岫附近の急を救ふ爲に在雨乞森第二歩兵隊第三大隊を第六十二師團

長の指揮下に入らしむ

二、第二十四師團は概ね攻撃發起の舊陣地に態勢の轉換を終れり

三、獨立混成第四十四旅團は第六十二師團左翼の崩壊に備ふる爲再び天



三師團

行動(本島)

陣地(本島)攻去同始

此地(本島)攻去進備同始

対スル(本島)攻去開始

興

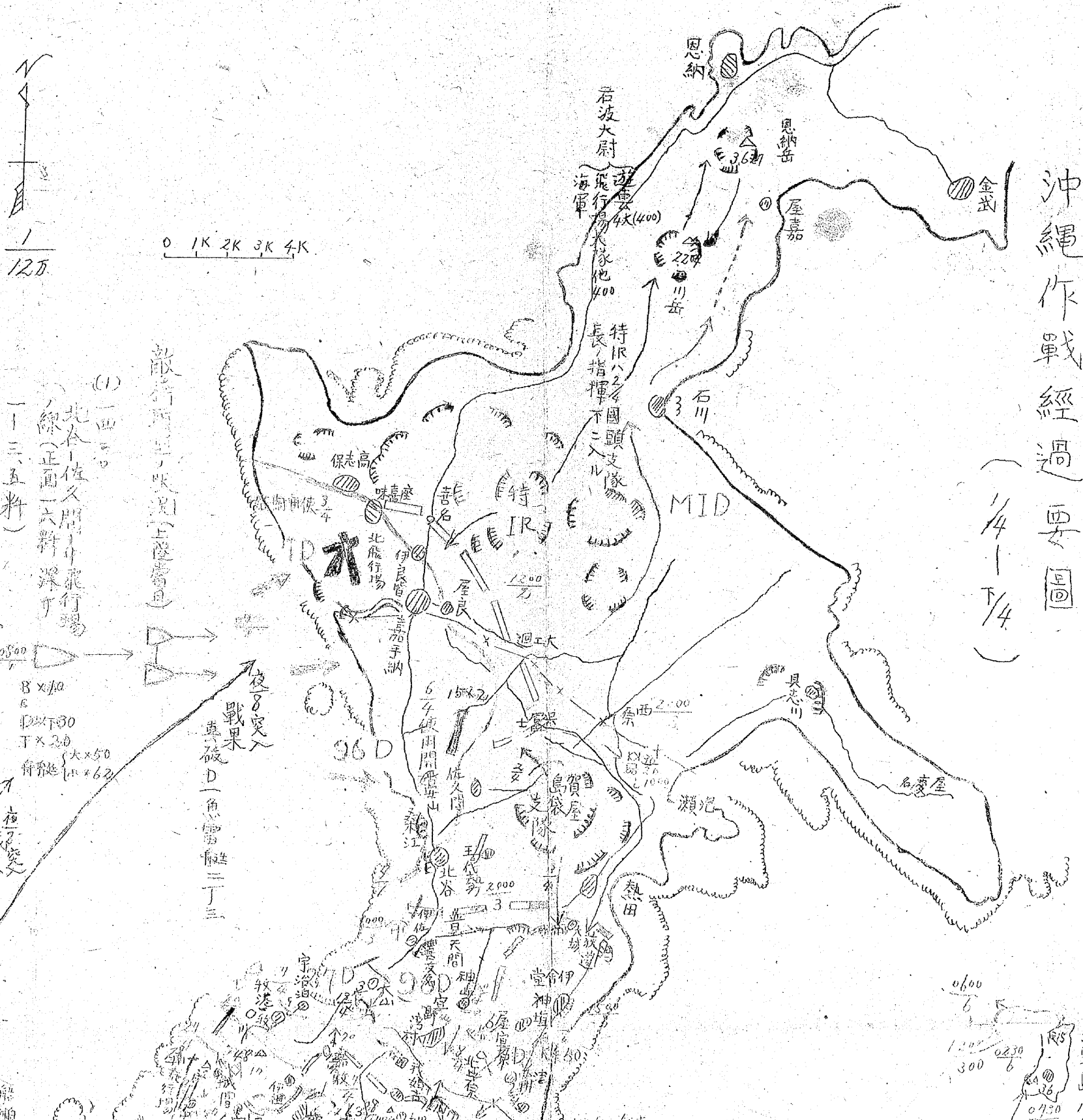
状況

行

要圖第四

沖繩作戰經過要圖

(1/4 - 1/4)



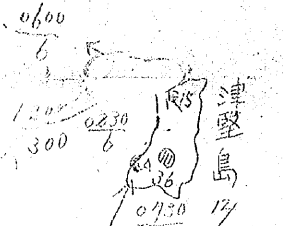
1
125

0 1K 2K 3K 4K

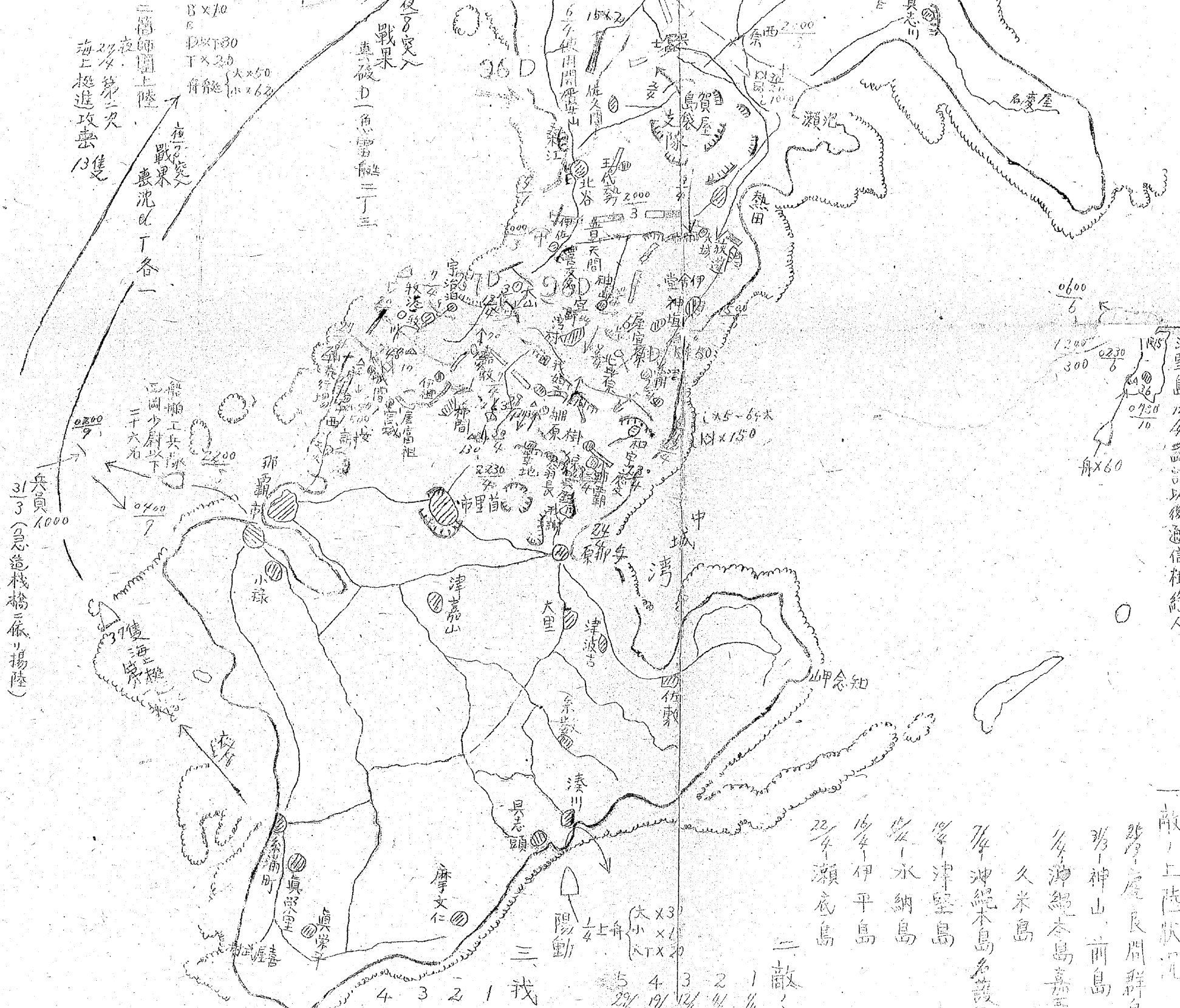
(1) 一四〇〇
北谷一佐久間飛行場
線(正面)六料深寸
一三三(五料)

(2) 夕刻
北谷一佐久間一吳富士
屋良長一伊良皆一座喜味
線(正面)六料深寸(五料)

敵行所(上陸場)
夜8突入
戰果
破D(魚雷艇)二三
夜8突入
戰果
破D(魚雷艇)二三
夜8突入
戰果
破D(魚雷艇)二三



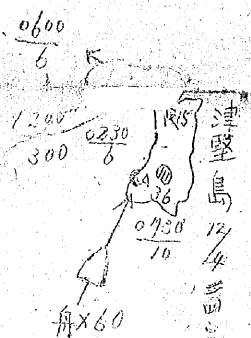
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



三師團上陸
夜、第二、三、四
海上挺進攻撃 13隻

戦果
敵破D(魚雷艇二三)

31/3 (急造機橋三依リ揚陸)



津堅島 12/4 以後通信杜絶

一、第六十二師團は全線激闘中なり
 澤岬附近の急を救ふ爲に雨乞森第二歩兵隊第三大隊を第六十二師團
 長の指揮下に入らしむ
 二、第二十四師團は概ね攻撃發起の舊陣地に態勢の轉換を終れり
 三、獨立混成第四十四旅團は第六十二師團左翼の崩壊に備ふる爲再び天

一敵ノ上陸状況

- 27/4 鹿島間群島
- 28/4 神山・前島
- 1/4 津堅島
- 久米島
- 2/4 津堅島
- 3/4 津堅島
- 4/4 伊平島
- 22/4 瀬底島

二敵ノ主要ナル行動(本島)

- 1/4 上陸
- 2/4 我カ全陣地ニ対スル攻撃開始
- 3/4 我カ全陣地ヲ守ル爲ニ激進準備開始
- 4/19/4 主陣地ニ對スル激進準備開始
- 5/29/4 攻雲再興

三、我が軍ノ状況

- 1 上陸時持リノ攻撃
- 2 5/4 賀屋支隊轉進
- 3 1/4 金線挺進攻撃
- 4 12/14 十カナル機自ラ上陸(丁各)

月日	人員	殺傷	戦車	損害
1/2		550	18	
7/4		3,600		440
11/4		6,300	198	2,100
28/4		18,000	294	
備考	1. 各當日追ノ綜合戦果ナリ			

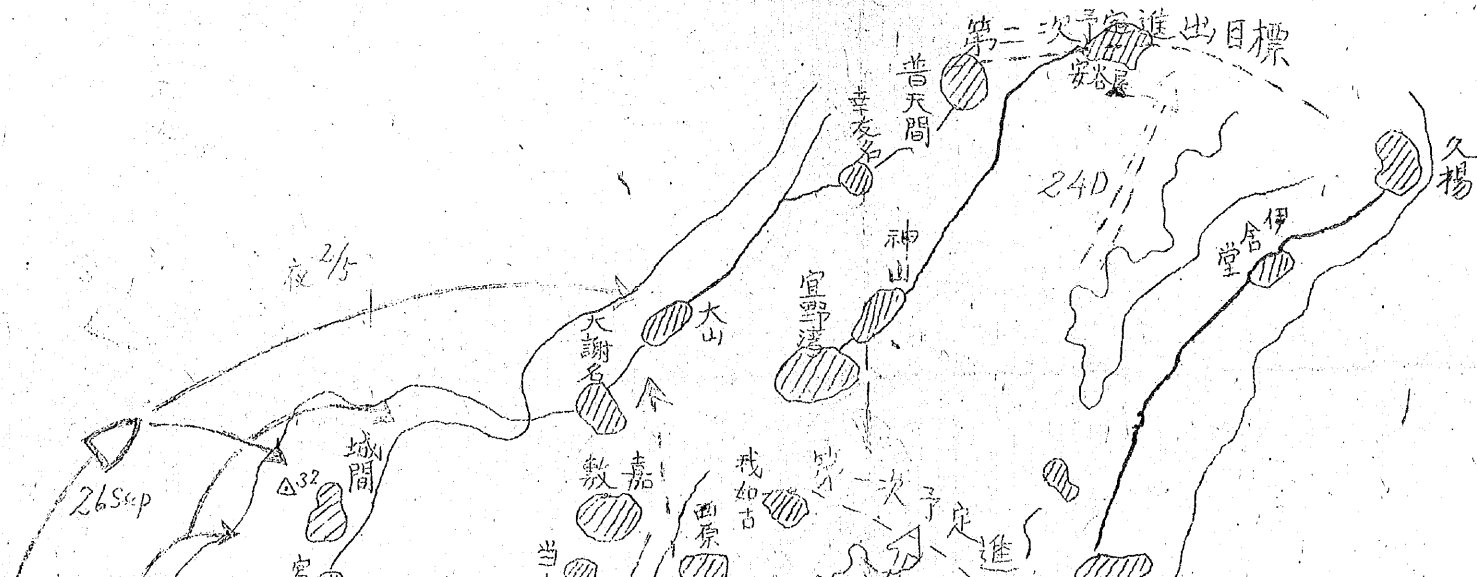
第三十二軍主力攻勢移轉經過(計畫)要圖

(於五月四日、五日)

要圖第五

備考

- 一 32正面63B主力依然存在シ
相場防禦ニ任ジアリ
- 二 前田附近以西62D正面於テハ
敵攻撃熾烈ナリ
24D正面於テ敵攻撃未ダ本格
的ナラス
- 三 44Bハ辨ヶ岳附近ニ集結戦斗
ニ参加スルニ至ラス攻勢中止トナル
旅團ノ戦斗加入ノ時機ハ24Dガ南
上原附近ニ高地ヲ確實ニ占領シ
得ル見透ツキタル場合ト予定
シアリタリ



久台方面の陣地に復讐を命ぜられ概要左の如き配置に移れり
右地區隊

獨立混成第十五聯隊

獨立第一、第二大隊

獨立速射砲第七大隊

基幹

眞嘉比、天久の線を占領す

左地區隊

特設第六聯隊（船舶支部）

獨立歩兵第二十三大隊の一甲隊

基幹

泊及、那覇正面の守備を任ずること即故

八月九日

敵の攻勢回全面的に難獲となれり

幸地以東は三傳地の線以西は田浦方無名部落、經家北端、安波茶
西方高地、深心北側高地、安謝川の線を確保しあり

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23